

第1回地区青少年育成委員会 議事録

日時: 2025年8月1日(金) 15:00~17:00
〔司会進行〕 キャビネット委員: 山本祥司
〔議事録作成人〕 キャビネット委員: 乾菜月

出席者

地区ガバナー: 笹部 美千代(岸和田コスモス) 第1副地区ガバナー: 堀 典之(茨木) 第2副地区ガバナー: 十河 宏輔(枚方ローズ)
青少年育成コーディネーター: 山下 大(岸和田) ライオンズクラブ委員長: 木田 剛(枚方ローズ) 薬物乱用防止委員長: 栗山 大(摂津)
キャビネット委員リーダー: 城岡 諭(枚方ローズ) キャビネット委員: 乾 菜月(大阪中央) 山本 祥司(岸和田コスモス)
青少年育成委員: 畑中 洋司(大阪) 定山 光洛(大阪みなみはや) 大塚 智明(高槻グリーン) 白崎 譲隆(堺) ★藪野 亮(岸和田UNI-TY) 藤本 茂典(下津) ★辻村 昌宏(御坊)
宮原 孝司(東大阪菊水) 三好 直人(藤井寺)

★web出席

1. 開会

ライオンズクラブ委員長: L木田	はい、皆さんこんにちは。第一回目の委員会ということで、本日はどうぞよろしくお願ひいたします。 今期のライオンズクラブ事業は、一つ大きな山を超えたなど感じています。次は、来期の開催に向けてまた動き出す時期です。 さらに、薬物乱用防止教室についても本格的に取り組む流れとなりますので、引き続き皆さんのお力添えをよろしくお願ひいたします。以上です。
------------------	---

2. 出席者の紹介

次期キャビネット委員: L山本	上記記載により割愛。
-----------------	------------

3. 挨拶

地区ガバナー: L笹部	皆様、改めましてこんにちは。着座にてご挨拶させていただきます。失礼いたします。 ここ数日、日本列島では本当に暑い日が続いております。 また、遠くカムチャッカ半島での地震の報道もあり、自然の脅威や、日々の暮らしの中での不安を改めて感じております。 そうした中、本日はこのように皆様にお集まりいただき、誠にありがとうございます。 今回のようなハイブリッド形式での開催は、お仕事のご都合などで現地にお越しいただけない方にもご参加いただけるという点で、大変意義深く、今後の委員会のあり方としても、とても良い形だと感じております。 今期の委員会は、皆様のお力とお声を集めて、一体感のある、活気のある委員会になるのではないかと、大いに期待しております。特に先ほど、委員長からもご挨拶がありました通り、今期のライオンズクラブは、6つの開催が予定されており、例えば夏休み中の実施など、非常にタイトなスケジュールが組まれています。この委員会は、華やかさを前面に出すというよりも、現場の声や実情に根ざした、まさに「地に足のついた」委員会になるのではないかと思っております。 皆様のお力添えをいただきながら、今年1年、しっかりと取り組んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします
第1副地区ガバナー: L堀	本日は本当に暑い中、ご苦労さまです。Zoomでご参加の皆様も、お忙しい中ありがとうございます。 「青少年」と聞くと、やはり私たちの未来を担う存在であり、その子どもたちのために、私たち大人が今できることをしっかりとと考え、取り組んでいかなければならない——そんな責任を感じております。 次年度の話をすると「鬼が笑う」と言いますが、やはり今からでも、次の世代のことを真剣に考えていくことは大切だと思っております。 この委員会は、これまでの基盤をしっかりと引き継いでくださっている委員の皆様のおかげで続いてきました。 そしてさらにこの1年間を通して、その基盤を次年度以降へとつなげていけるよう、皆様と力を合わせて進んでまいりたいと思っております。 どうぞ、1年間よろしくお願ひいたします。以上、ご挨拶とさせていただきます。

4. 議事

<p>(1) ライオンズクラブ委員会 ライオンズクラブ委員長：L木田剛 ①ライオンズクラブとは ②ライオンズクラブを普及させるために ③ライオンズクラブの現状と課題 ④委員会の役割 ⑤その他</p>	<p>ライオンズクラブは正式には「ライフスキル教育プログラム」と呼ばれ、ライオンズクラブが持っているプログラムの一つです。「クエスト」はアメリカの研究機関を指し、このプログラムは子供たちにライフスキルを教えるための組織的に構成された学習教材です。ライフスキルとは、アカデミックスキル（学力）とは別の、コミュニケーション能力や問題解決力、感情のコントロールなどの生活の中で行動する力を指します。</p> <p>ライオンズクラブプログラムの目標は、行動力と前向きな価値観を育むことを目指しており、特に五つの能力（社会認識、自己管理、自己認識、責任ある意思決定、人間関係スキル）を重点的に学ぶことを目標としています。良い集団を作ることでこれらのスキルを育んでいきます。</p> <p>ライオンズクラブの関係団体は、ライオンズクラブプログラムはライオンズクラブ国際協会が著作権を持っており、LCIF（ライオンズクラブ国際財団）が交付金を提供しています。日本ではJAYRO（日本青少年育成協会）がプログラムの普及と管理監督の責任を持っています。各地域のライオンズクラブが学校や教育委員会への働きかけ、ワークショップの開催、フォローアップなどの普及活動を行っています。</p> <p>ワークショップ開催の流れは、まず教育委員会や学校に働きかけ、地域と学校の繋がりを探します。次にクエストセミナーや校内研修でプログラムの説明を行い、理解を得たらワークショップの開催に繋げます。校長会での説明も効果的です。ワークショップ後はフォローアップセミナーを行い、参加した先生方に継続的な支援を提供します。</p> <p>主な課題は四つあります。一つ目はワークショップの開催が夏（7月末から8月初旬）に集中していること。二つ目はワークショップを開催できる認定講師が全国で70名程度と少ないとこと。三つ目はワークショップ開催のための予算が限られていること（基本編と実践編で約60万円かかる）。四つ目はライオンズクラブメンバーが子供たちの成長を直接実感できず、共感が得られにくいことです。</p> <p>地区委員会の役割と地区委員の役割は、まず委員自身がライオンズクラブを理解し共感すること、各地区で学校や教育委員会との繋がりを見つけること、各クラブでセミナーを開催してもらうよう依頼すること、ライオンズクラブ説明員を養成し連絡協議会と連携すること、出前授業の実践や子供食堂・第三の居場所でのライフスキル教育の提供などが役割として挙げられています。</p> <p>アクションアイテム</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区委員は、ZCの職務訪問や諮問委員会で委員会報告を行う必要があります。地区委員に対して3分程度で説明できる資料を作成し、提供することを約束しました。 地区委員は、各自の地域で子供食堂や第三の居場所など、ライフスキル教育を提供できる場所の情報を収集することが求められています。 地区委員は、各クラブに対して学校や教育委員会との繋がりを探すよう働きかけることが求められています。 委員会は、ライオンズクラブ出前授業の実践を今年度の新しい取り組みとして進める決議を採択しました。 委員会は、ライオンズクラブ説明員を養成し、連絡協議会と緊密な連携を図ることを計画しています。
<p>(2) 薬物乱用防止委員会 薬物乱用防止委員長：L栗山</p> <p>(2) 薬物乱用防止委員会 薬物乱用防止委員長：L栗山</p> <p>①薬物乱用の現状について ②薬物乱用防止教室の概要 ③各リジョンの状況把握内容の報告（ディスカッションを含む） ④その他</p>	<p>みなさん、今日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。私たち薬物乱用防止委員会では、小学生や中学生に薬物の危険性を正しく伝えて、一人でも多くの子どもたちが薬物に手を出さないようにすることを目指しています。最近はフェンタニルという、とても危険な薬物が日本にも入ってきてるという報告があり、これは本当に深刻な問題ですから、私たちも強い危機感を持って取り組んでいかなければなりません。</p> <p>委員会のメンバーは、経営者や弁護士、税理士などさまざまな職業の方がいらっしゃって、それぞれの専門性を活かして薬物乱用防止教室で講演をしていただいている。</p> <p>教室を開くためには、まず認定講師養成講座を受けて資格を取っていただく必要があります。今年は大阪と和歌山で2回開催する予定です。講座を受けると、その日のうちに認定資格がもらえますので、すぐに活動を始めていただけます。</p> <p>資格を取ったら、クラブの理事会や例会で教室開催の承認を取り、学校や教育委員会に連絡をして訪問、担当の先生と打ち合わせをしてから教室を実施します。教室のあとには、子どもたちの感想文をもらって、次回の開催についても相談していきます。</p> <p>薬物の怖さは言うまでもなく、依存になれば抜け出せなくなり、犯罪に巻き込まれることもあります。市販薬の大量摂取やスマホ依存、SNS依存も問題になっています。だからこそ、子どもたちには正しい知識を持ってもらいたい、絶対に薬物に手を出させないことが何より重要です。</p> <p>教室はDVDの視聴と、その後の会員による補足説明、質疑応答という流れで、比較的負担も少なく続けやすいものです。また、寸劇や紙芝居を使った啓発もできますので、地域のイベントなどでも広く展開していきたいと思います。</p> <p>文部科学省の指導で、小学校6年生、中学生、高校生には年間1時間以上の薬物教育が義務付けられており、外部講師の活用も推奨されていますので、私たちの活動はとても意義あるものだと感じています。</p> <p>これからも各クラブで教室開催を増やし、まだ実施していない学校を見つけて協力をお願いし、認定講師養成講座の受講も推進していきたいと思います。クラブのリーダーの皆さんにも、この活動の意義をしっかりと伝えいただき、みんなで協力して薬物乱用防止に努めていきましょう。</p> <p>みなさんのご協力を心からお願い申し上げます。</p>
<p>(3) 共通事項</p> <p>①年間スケジュールについて</p>	<p>次回委員会は10月8日、その後12月3日（調整予定）、3月は5月4日水曜日、最後の引き継ぎ委員会は6月に予定されています。キャビネット会議については、第1回は既に終了し、第2回と第3回は出席義務がなく、第4回（6月5日）は出席必須であることが伝えられました。薬物乱用防止委員会のスケジュールも同様であることが説明されました。</p>
<p>②アジェンダシステムについて</p>	<p>今回は、新しく導入したシステムを使って委員会資料を共有する方法について説明させていただきました。今後は、皆さんにURLとパスワードをお送りして、そのシステムにアクセスしていただくことで、次回の委員会からはタブレットやスマホで簡単に資料を閲覧できるようになります。</p> <p>具体的には、青少年育成委員会のページにアクセスすると、前回の議事録や関連資料がいつでも見られるようになっておりますので、ぜひご利用ください。</p> <p>このシステムを使うことで、資料の配布や管理がとてもスムーズになり、皆さんの負担も軽減できると思います。もし使い方で分からないことがあれば、遠慮なくお知らせください。</p>

③出欠アプリについて	<p>今回は新しく導入される出席管理システムについて説明しました。これからは、キャビネット事務局から各クラブ事務局に送られる委員会案内に対し、ウェブ上で出席や欠席の返答ができるようになります。</p> <p>委員の皆さん、メールで届く登録用のURLから72時間以内にアカウント登録をしていただく必要があります。このシステムを使うことで、誰が出席するかすぐにわかるようになり、出席管理がとてもスムーズになる見込みです。</p> <p>ただ、まだ試験的な段階ですので、不具合や使いづらい点があるかもしれません。その際は遠慮なく教えていただければと思います。</p> <p>委員の方からシステムについていくつか質問がありました。まず、アプリのダウンロードは不要で、通常のウェブサイトとしてそのまま利用できるということを説明しました。また、クラブごとに出席管理の方法が違うため、クラブ経由での情報共有に課題がある点も話し合わせました。このシステムはまだ試験的な段階で、皆さんからのご意見や問題点を積み重ねながら、少しずつ改善していく方針であることが示されました。</p>
④その他	
(4) 各地区委員報告・自己紹介	各地区委員が順番に自己紹介を行いました。多くの委員が青少年育成委員会は初めての経験であることを述べ、互いに協力しながら活動していきたいという意欲を示しました。特に、子どもたちの感情コントロールの重要性や、青少年育成活動の意義について言及する委員もいました。
(5) その他	
5. 総括	
青少年育成コーディネーター：L山下	<p>皆さん、ありがとうございます。すみません、今年度コーディネーターを務めさせていただくことについて、改めてお話しさせてください。</p> <p>初めての委員会で緊張もありますが、委員長のお二人がしっかりされているので、心強く感じています。</p> <p>皆さんそれぞれ、二足のわらじを履いていらっしゃると思います。それぞれ役割は違いますが、徐々に理解を深めていただけると思いますし、私も皆さんのサポートをしっかりしていきたいと思っています。</p> <p>これから1年間、何か問題や困りごとがあれば、遠慮なく私に相談してください。しっかりフォローさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。</p>
6. 閉会挨拶	
第2副地区ガバナー：L十河	<p>教育実習の期間中に、ライフスキル教諭のような役割で受け入れがあるのは事実で、先生方もスキルをしっかり理解されています。授業の内容は幅広くて、自分たちで最終的に発表するための時間も設けられているんです。</p> <p>小学校の授業内容がパッと理解できるのは、やはり教育者の凄さだと感じます。先生方は授業の後もかなり教育を続けられていて、その流れが薬物乱用防止につながっています。こうした一貫した流れの中で特に大切なのは、「疎外感」を子どもたちに持たせないことです。</p> <p>疎外感を持つ子どもは、どうしても悪い方向に流れやすくなり、薬物に手を出すリスクが高まります。そうならないように、今回の委員会でも学校の先生方に理解してもらいたいながら、そうした状況を作らないように取り組んでいます。</p> <p>僕たちが推奨するベストプログラムを広めていくことや、薬物乱用を防止するための啓発活動は、大阪府警察とも連携して進めています。これは青少年の健全育成にとって非常に重要な取り組みです。</p> <p>そして、皆さんにぜひ考えていただきたいのは、薬物乱用防止の取り組みを広げるだけでなく、そのプログラムがどれだけ効果をあげているのかを検証することも必要だということです。先生方がどんな活動をしていて、その成果がどのように子どもたちに伝わっているかを調べることは大事です。</p> <p>学校教育委員会にも働きかけて、来年の春や夏に向けてプログラムの内容や効果をしっかり検証・研究していきたいと思います。これが今後の課題であり、より良い活動につなげていくためのポイントです。</p> <p>以上、簡単にお話しました。ありがとうございました。</p>